

## 「新興国台頭と国際秩序の変遷」(仮)

近年の国際政治をめぐる主要な関心の一つは、新興国の台頭である。中国、インド、ブラジルといった新興国の相対的な台頭は今後もつづく予想され、さまざまな面において、従来の西側先進国主導の国際秩序に変容を迫りつつあるようにも見える。

しかし目を転じてみればこれまでの歴史においても、中心的な存在ではなかった国が台頭して既存の秩序に挑戦し、国際秩序に変化を引き起こすという過程は繰り返されてきた。本特集は、新興国台頭が引き起こす国際秩序の変容の諸相を 20 世紀以降の歴史の中に探ることを目的とする。歴史的な分析を中心に据えるが、理論的知見等も特集の範囲に含むものとする。

本テーマの対象となる局面としては、たとえば①20 世紀初頭のドイツや日本の台頭が従来の国際秩序に及ぼした影響、②第一次世界大戦後にアメリカが主導した「新外交」が及ぼした影響、③第二次世界大戦後の植民地の独立が及ぼした影響、④1970 年代に産油国／資源保有国が及ぼした影響などをあげることができよう。冷戦などを上述の切り口から再考することも可能であろうし、また政治主体の「国際秩序」ばかりではなく、経済的側面や社会的側面を対象とすることもできるはずである。

20 世紀から今日に至るまで、ナショナリズム、イデオロギー、そして時には宗教や文明など、さまざまな要素が時々の国際政治を方向付けるものとして論じられ、一世を風靡してきた。これに対して本特集は「新興国台頭と国際秩序の変容」という切り口でこの 100 年余りを再考し、そこから 21 世紀中盤に向けた巨視的な示唆を得ることを試みるものである。多くの内容豊かな論考が寄せられることを期待します。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600－800 字程度にまとめたものを、自宅・勤務先の住所・電話・FAX・メールアドレスを明記した上で、2014 年 8 月 31 日までに編集責任者へメールでお送りください。本特集号の構成について、バランスを総合的に検討した上で、執筆をお願いする方には、2014 年 9 月 30 日までにご連絡いたします。なお、論文の最終提出の締め切りは、2015 年 7 月 31 日、論文の分量は注を含めて 2 万字以内とします。また、最終的な掲載の可否は論文提出後に査読を行った上で決定しますので、この点を含めてご了承ください。

執筆要領については学会ホームページをご参照ください。要領を遵守してのご執筆をお願いいたします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせは、以下の編集責任者までお願いいたします。

《編集責任者》 宮城大蔵

《連絡先》 〒102-8554 千代田区紀尾井町 7-1

上智大学外国語学部国際関係副専攻(2014 年 4 月より総合グローバル学部) 准教授

電話： 03-3238-3537 (研究室直通) E-mail: tmiyagi★sophia.ac.jp

(★を@に置き換えてください)